

女子自由形における記録の推移と可能性

荻野 夕里弥 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 白木 孝尚

キーワード：女子自由形 記録推移 ジュニア選手

1. 緒言

近年、世界で活躍する競泳日本代表選手が増えてきているが、自由形では世界と対等に戦うことができていなかった。2004年アテネオリンピックの女子800m自由形で金メダルを獲得したものの、短距離種目では国際大会派遣標準記録を突破する選手すらいなかった。しかし、2012年のロンドンオリンピック選考会では、上田春佳選手が100m自由形において国際大会派遣標準記録を突破してオリンピックに出場した。そして、400mメドレーリレーでは自由形で外国勢に遅れをとることなく銅メダルの獲得に貢献した。

本研究は女子自由形短距離種目に着目し、この10年の記録の推移を分析した。また、2014年から2020年までの推定値を求め、今後記録がどのように変化していくのかについても予測し、日本の女子自由形が国際大会で活躍するためのデータを提供することを目的とした。

2. 方法

I. 日本の女子自由形100m,200m,400mに着目し、2004年から2013年までの日本選手権、日本学生選手権、日本高等学校選手権、全国中学校水泳競技大会の決勝8名の記録を収集した。

II. 収集した記録の平均値ならびに標準偏差を算出し、それぞれの平均記録をグラフ化した。また、各順位について10年間の記録の推移から近以直線を求め、2020年までの記録を予測した。

3. 結果ならびに考察

2004年から2013年までの日本選手権、日本学生選手権、日本高等学校選手権、全国中学校水泳競技大会における100m自由形と200m自由形の平均記録は徐々に向上していた。400m自由形においては、2004年と2005年の日本選手権の山田沙知子選手と柴田亜衣選手

の記録が圧倒的に速かったため、平均記録も速かった。二人の引退以降、彼女達の記録を超える選手がいなかったため平均記録が停滞したままである。

100m自由形、200m自由形において、今回算出した2014年から2020年までの推定値通りに記録が向上していけば、2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックに出場できると考えられる。しかし、世界の記録が向上することも予測され、国際大会派遣標準記録も向上することを考えると、算出された推定値よりも速い記録を目標にする必要がある。400m自由形において、現在の記録の状況が続けば、全体の記録が向上していかない。国際大会派遣標準記録を突破するには、まず2004年、2005年の山田沙知子選手と柴田亜衣選手の記録を越える必要がある。このまま100m,200m,400mの推定値通り記録が向上していけば、現在の全国中学校水泳競技大会で上位に入る中学生と日本高等学校選手権で上位に入る高校生が2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックで活躍することも予測できる。

4. まとめ

推定値が把握できれば現在の中学生、高校生の選手が「自分が何歳の時に何秒で泳げば世界で活躍できるのか」という目標を明確に持つことができると考えられる。将来的な記録の目標設定ができれば、目標とするオリンピック選考会に向けての経過プロセスを具体的にイメージすることが可能になり、より目標達成に近づけるようなトレーニングを立案し、実行できることが期待できる。

5. 引用参考文献

1)SWIMMINGMAGAZINE 2003 (5) P10~11
ベースボールマガジン社